

二十七日

延壽通習實施不見字。有力十二
諸名可得之。祖守備所長殿毫
多亦能取可好向レテ模討ヲ加レ
不曜。

臨字臨長ヲ湯不字在人子其他テ三止の
以行在大対方十倍心

祖邊土対。厨子少対。来リ下流心。

二十七日

全曜。

字前血穿能陣地偵察

字位祖穿字射擊の観心。案魂ト

不斷練意ヲ強調ス。

比爾既現相不變面白カク先聲ノ苦

二十七日

斗ノ鬼ノ

字前古陣地偵視察。字位防禦

斗研亮。祖部亦長殿ニ招カレテ

伊長上者ニ痛飲。偷飲ナル時ヲ追又

明前解知。字案ヲ究得テ不カク

能也合殿ニ元氣ヲ氣運生久ニ傍観

不カク

二十七日

日曜

字前古陣地偵視察。字位防禦

字位祖穿字射擊の観心。案魂ト

不斷練意ヲ強調ス。

比爾既現相不變面白カク先聲ノ苦

壬戌日曜

壬戌著天孫組ノ遺蹟ハ中山忠光卿
以下皇威彌布ニ由テ極ニ壯烈トシ血淚
若冲ノ跡蹟著クテテ練成タラシム
礎石拾石ノ貴キヲ思フ吾カ身ヲ捐テ
年ヲ思フ塊不ヤ心ヲ奉公ヲエシ
龜山中尉ヲ招キテ夕食ラテ誓ヒテ誓ヲ
誓ハ龜ノ西次更ニ命社ノ大荒多松林
ニ此身ヲ奉テ祭ヲ奉テ
鮮肉ヲ戒ム由テ心ヲ壯クシテ温同
カニ思フ誓ヲ三坂ノ故及テ誓ニ至リ
才詔ヲ伺フ

三香火曜

大傍陰雲ナリ
山日向不向子見、狀此ヲ覺テ流テ
出雲福ヲ祈ル
本邦ノ地ヲ教官ニ勤メ
若用紙ヲ見ル能クト訓ハス、所多ク
幼願 社頭爽梅
御覽
鳳おろし世の月には世を祈る
白うき一清く梅のまをり
火所心目被宸務ヲ修メテ誓ニ成ル
才新念ニ思フテ誓ヲ奉テ誓ニ成ル

御歌

御長らのこころさけはう神垣の

まをさにはかちく 梅もまくらむ

御歌

しつたれは神のこころむすむらむ

あけゆくとしの 梅のあけ花

壬辰 水曜

新部教育 防禁 終年 終極 主働性

教育の多自己、高志ニ強從セシムルヲ此ニテ

以テ學期ヲ神明ニ祈リ、再試途ニ必ズ和テ

和ヤサルニ示テ、誠ニ至ラサレバナリ。

二月

一日 木曜

各地ニ産志切後 村近ヲ和テテ成中場

所免、 静ニ考ルニ概合ヲ作レ

誠心ヲワシレテ

二日 金曜

牙下 便教育ヲ見ルニ 深刻ナル様

茶持ヲ良シ

中放 古語 後島 存書ノテ 留ル

日米 歌力 此度 各 落シ 物ノ有

唯 終期 上ニ 作 成 全ニ 示 之 何ナ

勝 才 得 才 好 才 能 才 比 島

歌 集 涉 入 伝 迷

三日

皇廷御覽一討者か不我地ニ
学科アリ一平信多方取長
日中不中其集号相發心
海心敬信中西先生ニ招カテ御覽ニ

四日

午前中有鳥所地ニ遺棄カレシ所長合致
後梅葉赤方所ホニニ發見ナリ
御中多梅果ニ此島村有氏ヲ招キテ
夕飯ヲ共ニシテ語心
陸海民ニ致一心一休ニ今一史別ケテト

五日

深奥。固勢亦及カテ海ヲ離ルニ
如リ。要ハ御指ニ違ハレ
比島探録。伯都所術我存信ニ果能ヲ
加フ。戰事指身ハ信ヲ願フ切実ナリ
感テ。此ノ多人ノ命ヲ批判スヘキ致ニ非
唯現存現況ヲ以テ此ノ此ノ勝ヲ取ル
カ也。ルニ
日曜
昔、ニ多子ト信ルニ年而ニニ遊心ニ事
者ニ信心。大ニ信心ニ知レテ大ニ信心
清道長及氏ヲ論テ流
考ヘヨ。一信ニワ。天ノアテニモ。一考ヘヨ

六日

人未ダ之ヲ尋有ニ得ルニシテ、誠ニ至
可也又ヤ道ニ、殿中ニシテ、

大曜

別記事項ニシテ平凡ニシテ一日ニ終ル

七日

水曜

都府長殿宛ニ隊長合報、海軍側ニ
仰送シテ又、後五龍品ノ試射ヲ

見学ス

教米重一取、マニラ市ニ侵入シ未ル天正

比倫合戦ニシテ、皇軍ノ陣中ヲ

新ニ最モ切ナリ

新報或ハ情報記録ニ見ル内外情

夏ノ頭ヲ

勢ヲ探ミシルカ如キ感、冷靜ニシテ

孫子夜ニ固ニ筆又ニ之件ニ出ル候キ

候ノ事人ノ胸ヲ衝クモノナリ

八日
水曜

天候陰悪、湖凡特ニ甚シク、野草類ノ枯死ヲ

憂フ、本多隊此邑偵察ハ、上ノ力位也、

決定ニ決ス

祖師前カ附キ、徳心ニシテ、衆智ヲ導クニ

利アリ、文々事々、互ニ得ル所相メテ多シ

白ク、泉下ニカケシ、君子討逆ニ

躊躇スカス、唯、此ノ一途ノミ

九日 金曜

午前中 遊園地偵察。深谷中池及び、非常十
所其心ニ探ク故意ヲ表ス。遊園地ヲ復テ
午後二時多。伊勢所ノ演習ヲ見ケレテ
指書ス

午後三時多。幾時演習遊園地ニ由ルニ
指書並打合セテリ。更ニ演習長ヲ集メ
指書又一日ノ演習相テ時整テリ

十日

土曜

午前 砲台等時ニ指書及打合セテリ
午後 演習長等指書。收獲方ナリ
山石利用ニ關スル研究。世其

1324
来ニ

十一日

午前 砲台等時ニ指書及打合セテリ
午後 演習長等指書。收獲方ナリ
山石利用ニ關スル研究。世其

神武天皇迄ニ以テニ千六百五十年
外紀天皇ニ紀カレテ奉テリ内大慈恩ノ
御授成テ下直民直ク忠ニ立テテ
全朝為テ一ニ作リ護持シテ一統ニテ
大祀想心ニ由リ此治カントルニ
大降時ニ遊著シ又此布キ米美ノ神
望ニシテ。皇系ニ命カ生此存亡ヲ
彼カ不違テ上層 徳セントト人。即チ

如字是心可斷也于掛也
脚字尚身心ノ一回ニ重リ見舞ニ来
清承者大郎此曰今

從來傳統因習ニ之捉公ニ新ニ魂美
深淵ニ眼ヲ重復シテ心ヲ重又
蓋ニ至貴 吾人カ聯肝ヲ衝ク

十三日 大睡

午前中 夢見 下右存ニ對シ 岩科
須永カ依定 来島カシ 種ニ怨嘆ス
醒則ニル氣分ニ 惚々ニ
屋居ラ其ニシテ 十時時迄 遠心
三快カ依交 夜ニ飛テ 深更ニ平

造又 甚危等ニ界又

神經衰弱ニ陥ル勿シ 神經ハ必致
七カカ又 大ク大ク

武田麟太郎氏ノ 小説 後述
仲々ニ素直ニシテ 學ヲリ 近來 研究
流ハ

十四日 水曜

同紫微裡ニ 存ヲ明カス

三回 彼我 喧嘩 殊ニ 神ノ力ニ
著シ 病院ヲ 見舞ニ 心ニ 重
泉長夫カ依テ 跡死ヲ 知ル 熱血
男 彼 宿暗ヲ 思ヒテ 感慨 深シ

田東田方面致懇誠成、未嘗分り
 大乗島、存在又為多しりんか。但し
 比島、致、物才七位目カ西の又。
 夕刻海軍宿舎火災あり。藩付カ欠ク
 毛ノ島第一級、朕未ダシク
 被部隊、夜、致、集カテ、五名食カ
 其ニシテ、増勢判断、新井ニテ、語ル合カ
 十
 土曜
 中
 徳、南、有、致、時、南、カ、使、ク
 曲、東、及、伊、豆、カ、理、致、致、相、告、カ、定、カ、
 此、文、字、通、リ、災、致、辨、相、カ、言、ス、同、カ、
 志、氣、信、ニ、島、物、以、成、カ、案、カ、下、
 頭

三、長、少、然、及、勢、カ、都、府、附、カ、西、年、輕、カ、
 通、道、也、狀、同、下、部、隊、上、カ、誠、ニ、痛
 後、事、カ、ト、難、カ、海、大、局、カ、見、カ、
 又、止、ロ、カ、事、東、心、カ、リ、即、カ、ス、カ、及、
 加、我、將、校、田、ニ、將、又、居、但、人、ニ、強、カ、カ、功、後、
 男、急、カ、事、事、告、ニ、盡、シ、難、カ、君、事、カ、
 年、事、同、黨、陶、カ、奏、カ、致、シ、テ、遺、烈、カ、
 継、承、カ、先、軍、カ、以、テ、世、務、カ、定、カ、合、カ、
 口、ニ、ト、カ、勤、カ、君、事、將、校、田、カ、
 余、カ、也、修、カ、責、任、カ、大、愈、重、大、カ、
 徳、度、カ、一、抑、シ、テ、真、カ、捕、物、且、皆、尊、カ、
 道、ニ、徹、カ、口、ニ、ト、カ、深、カ、誓、カ、
 了

夜三時の如く此の命を奪ひ去る。格殺
田舎の事とて天下に名を傳へり。い
て是れ又、旗本中、切腹請願（一）
徳島高田の如く開始せり。下野、徳島
才助や切腹。遠井中尉、鎮死（一）
徳島、徳島、及下野、同前。

七日

此の事と其の事と、一、徳島、全面的批判
い、評し、此れを、一人、徳島、徳島、及下野
い、徳島、此れを、一人、徳島、徳島、及下野
い、徳島、此れを、一人、徳島、徳島、及下野
い、徳島、此れを、一人、徳島、徳島、及下野
い、徳島、此れを、一人、徳島、徳島、及下野

シテ、指揮官トシテ。
既、功レ、徳島、功カレ。徳島、徳島、及下野
い、徳島、此れを、一人、徳島、徳島、及下野
い、徳島、此れを、一人、徳島、徳島、及下野
い、徳島、此れを、一人、徳島、徳島、及下野
い、徳島、此れを、一人、徳島、徳島、及下野

徳島、徳島、及下野、徳島、徳島、及下野
徳島、徳島、及下野、徳島、徳島、及下野
徳島、徳島、及下野、徳島、徳島、及下野
徳島、徳島、及下野、徳島、徳島、及下野
徳島、徳島、及下野、徳島、徳島、及下野

徳島、徳島、及下野、徳島、徳島、及下野
徳島、徳島、及下野、徳島、徳島、及下野
徳島、徳島、及下野、徳島、徳島、及下野
徳島、徳島、及下野、徳島、徳島、及下野
徳島、徳島、及下野、徳島、徳島、及下野

